

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇しておりました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

12 週で 1 未満となり、流行レベルではなくなりました。

2020 年第 14 週の定点当たり報告数は 0.15（患者報告数 750）となり、前週の定点当たり報告数 0.27 よりも減少しました。

都道府県別では青森県（0.98）、岩手県（0.58）、富山県（0.48）、岡山県（0.45）、鳥取県（0.41）、京都府（0.38）、福井県（0.32）、沖縄県（0.31）、大阪府（0.31）、島根県（0.29）の順となっ

ていました。

5週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10以上）の流行でした

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間（2020年第10週～2020年第14週）ではB型（67%）、AH1pdm09（30%）、AH3 亜型（2%）の順となっていました。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>）を参照してください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

2020年第14週（3/30-4/5）のインフルエンザ報告は、長崎市（0）、長崎県（0.2）で、第13週（3/23-3/29）長崎市（0）、長崎県（0.3）と比較すると、長崎市は報告が0で、長崎県は減少しました。

50週以降の報告数が10以上（注意報レベルの流行）となっていましたが、6週までで注意報レベルの流行がおわりました。11週以降で1未満となり、流行レベルではなくなりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル（1以上）となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。以後、流行レベルを維持していましたが、11週で1未満となりました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。今シーズンは50週から6週（2/3-2/9）まで報告数が10以上（注意報レベルの流行）でした。7～11週は流行レベルでしたが、12週で1未満

で流行レベルではなくなりました。今後も注意が必要な状況は続いています。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。